

東京歯科大学同窓会会報

東京都千代田区神田
三崎町一ノ七

発行所

東京歯科大学同窓会

編集兼北村勝衛
発行人
電話東京(301)3421(代)

第六十八回同窓会総会

前日に東京歯科大学学会開催

第六十八回東京歯科大学同窓会総会
会は前号予報の如く、来る十一月十一日(日)に開催されます。

当日は、午前十時より総会が開かれ会長挨拶、諸報告その他が行われ、正午より一休休憩となり、午後一時から下記の特別講演が催されます。今回は、現在日本における心臓外科の第一人者であられる東京女子医科大学の榊原任教授に「心臓疾患について」と題し十六ミリ映画、スライドを用いての拡大且つ又深遠なお話をうかがうと共に歯科、口腔外科の立場との関連についても特に御高説願う事となりました。同窓の皆様には万障繰合せられて是非御参席下されまますようお願い致します。

また、前日の十日(土)には第一五八回東京歯科大学学会総会が母校講堂において午前九時より午後五時まで開催されます。当日は別記(第二頁)の如く、上条教授並びに山本教授の特別講演が行われることになっております。同窓各位におかれまし

ては、本学会講演にも是非お出掛け下されますよう、おすめ致します。

尚又、去る九月十五日午後二時より母校講堂にて、全国評議員会及び支部長会が臨時に行われ、役員(副会長)補欠選挙及び花沢鼎先生胸像建立の二件案が慎重に且つ又和気あいあいのうちに極めて円滑に審議され、何れも満場一致で決議されました。閉会後午後五時より最近開店されたばかりの後楽園ボーリングビル五階グリルにおいて総計百名に達する評議員、支部長を一堂に招いての懇親の宴を張り、午後七時過和やかなうちに散会となりました。

全国評議員及び支部長会開催御通知

来る十一月十日(土)午後二時より母校において、東京歯科大学同窓会全国評議員会及び支部長会を開催致します。

御多忙中誠に恐縮ながら御出席下さいますよう御通知をお願致します。

昭和三十七年十月五日

評議員
支部長
殿

同窓会会長 中井武一郎

第六十八回総会開催通知

左記次第により第六十八回東京歯科大学同窓会総会を開催致します。多数会員各位お誘い合せの上御来会下さいますようお願い致します。

記

日時 昭和三十七年十一月十一日(日)午前十時～午後三時
場所 母校第一教室

・同窓会総会 午前十時開会

一、開会の辞

一、会長挨拶

一、報告

一、その他

・特別講演 午後一時～三時

「心臓疾患について」

東京女子医科大学 榊原 任教授

心臓疾患の種類の大略をのべ歯科、口腔外科の立場から問題になる点にふれる。なお、各種疾患の内科、外科治療の大略をのべる。手術の映画なども併用したい。(演者抄)

昭和三十七年十月五日

会員各位 殿

東京歯科大学同窓会会長 中井武一郎

◇特別講演終了後、昨年極めて好評を博した抽籤会を本年も行います。豪華賞品を多数準備し参加者全員に当るよう企画致しましたので、是非御参加下さい。

◇例年の如く、器械材料の展示即売会を開催致します。

おもな内容

- 1 第六十八回総会開催通知
- 2 副会長に菅野修氏選任さる
- 2 花沢鼎先生胸像建立について
- 3 齋藤久教授退職
- 4 ケルン市に開催されたF・D・Iの概要
- 7 各地同窓会のごき
- 8 クラス会だより

同窓会副会長に

菅野 修氏選ばれる

荻原副会長の後任として



会においても大いに御活躍願えることを信じて止みません。

菅野 修氏略歴

明治三十九年九月出生

大正九年九月 母校卒業

現職

去る二月十五日逝去された荻原同窓会副会長の後任選挙が去る九月十五日の臨時全国評議員及び支部長会議において行われ、満場一致で仙台市に在住なされる菅野修氏(大正九年母校卒)が新たに副会長に選出された。同氏は現在宮城県歯科医師会長の他多くの要職にあり、今後同窓

昭和三十二年四月より宮城県歯科医師会会長、日本歯科医師会代議員
昭和三十二年九月より宮城県社会保険医療協議会委員
昭和三十二年一月より宮城県歯科医師国民保険組合理事長
昭和三十七年四月より日本歯科医師会代議員会副議長 その他(略)

花沢鼎先生胸像建立

資金募金について

母校の興隆と歯科医学の研究等に真に偉大なる功績を残された花沢鼎先生の御遺徳を後世に伝えるために同窓会役員会に於て胸像建立の計画が懸案となっており、たまたま本年二月花沢先生の第十三忌に際しての追悼講演会の席上に、出席者よりこの問題について提案があり、全員の賛成を得ました。

そこでこの件について去る九月十五日に全国評議員並に支部長会を開催し、その計画を提案しました。満場一致を以て、これに協力する事になりましたので早速に募金致します。

会員各位には今回の事業について、深く御理解下され、多数応募賜ります様懇願する次第であります。

募金金額 一口 五百円

尚、募金につきましては、各支部長より直接御連絡がありますのでその節には何分共よろしく御願い申し上げます。

昭和三十七年九月二十日

東京歯科大学同窓会会長

中井武一郎

会員各位殿

同窓会事務局よりお願い

左の方々と同窓会報をお送り致しました所転居先不明の為め返送になりました。転居先御存じの方は御迷惑ながら事務局迄お知らせ下さるようお願い申し上げます。

只今名簿の正確を期するため整理中ですから今後移転、改姓、改名等お知らせ下さるようお願い申し上げます。

堀 登良男 18.9
浅川 正吾 15
山口 進 36

馬淵 薫 8
杉浦 津 9
松本新一郎
井口 経敏
井口 由彰
升井 正男

柏原 一郎 15
近藤 長吉
後村 泰吉
北村 正男
藤本 毅

成石 舜 12
西久保 稔 15
堀内 正賢 13
勝山 大八
池田 治美 24

深田 映子
横濱市戸塚区上倉田四九五

岩井 一 23
野本 勝美 17.9
小出秀二 15
長谷部 昂
舟生 秀夫 4

石和田 清 25
高坂 昇 3
片岡 貞 23
上村 晋也 35

第一五八回東京歯科大学学会(総会)御通知

本年度東歯学会総会は来る十一月十日(土)母校講堂に於いて午前九時より開催いたします。その際次の二つの特別講演がござい

一、宿題報告「口腔付近領域の循環機構について」

上条雅彦教授(午前十一時から正午までの予定)

一、特別講演「歯科矯正学における二、三の問題点」

山本義茂教授(午後四時から五時までの予定)

x

x

x

x

x

x

なお演題募集締切は十月二十日(土)正午迄学会担当米沢幹事(四百字の要旨をお届け下さるようお願い致します。尚又、この際同窓会員の中で未入会の方は是非本学会に御入会下さるようお願いいたします。

会費年額 壹千円

機関誌「歯科学報」(月刊)を送付致します。

岩井 一 23	横濱市神奈川区三ツ沢下町二三	鈴木 道子 34	品川区南品川六ノ一四二一
野本 勝美 17.9	長崎県北松浦郡楠泊村	高田 清 36	世田谷区代田二ノ一九一二
小出秀二 15	大阪府此花区四貫島	沖 良和 25	九二二高田和方
長谷部 昂	木更津市木更津一八二二	安藤 博	松山市持田町一五ノ三
舟生 秀夫 4	茨城県那珂郡御前山村野口	竹内卯之助	中野区川添町四三
石和田 清 25	市川市八幡町五四	武林 千鶴	三田区新井宿一ノ二
高坂 昇 3	逗子市松山仲町一六	秋尾 榮 4	調布市金子町一〇三
片岡 貞 23	新宿区柏木五ノ一一	安永鹿三郎	杉並区下井草町八〇
上村 晋也 35	新宿区大京町九	宇野 孝 2	杉並区西高井戸二ノ一六
		青木 光也 26	仙台市国分町九三
			大崎市大館病院

学内だより

◇齋藤久教授職を解かる

「本学矯正学教室の齋藤久主任教授は去月十日を以て願により教授の職を解かれると共に、副学長の任をも解かれた。同教室の講座主任には山本義茂教授が任ぜられ、十月一月より就任された。(関連記事三頁)」

◇松宮誠一教授無事帰国さる

去る六月第十三日F・D・I総会に出席された松宮教授は予定のコースを終えられて去る八月二十三日無事羽田に帰国された。(関連記事四頁)

◇母校本館修理行わる

去月より水道橋本館の窓枠(サツシ)交換作業が行われている。この

退職のご挨拶

斎藤 久



停年退職の御挨拶を申し上げます。

過る九月十八日の本学全体教授会の席上で私の停年退職願が発表されて、教授全体の御承認を得、円満に退職させて頂くことができました。思えば大正四年に本学を三才で卒業し、現在七〇才の古稀の齢に達するまで、実に満四十七年間、終始一貫、学職に勤務させて頂きました。

その間何もお役にたてませんでした。この長い間毎日を楽しみ暮らせて頂くことは、全く先輩同僚及び後輩の諸氏並びに事務系職員諸氏のみなさまの御友情のたまものと深く感謝致して居ります。本学もこの四十七年間の歩みの中には大震災あり、大東亜戦争の敗戦あり、感慨無量のものがありました。幸に今日の母校の隆盛を見ながら居居することができました。今後は学校の職を辞めても学校へは時々来て学校の匂を嗅ぎたいと思いますので、何卒今後とも旧に倍して御交誼をたまりますようお願い申し上げます。

日本学術会議のいろいろ

日本学術会議の第六期会員を選ぶ選挙は、最近、この会議のもつ役割や性質、選挙方法などについて多数の御質問が同窓諸氏から寄せられるようになって参りました。

そこで、この機会に、紙面の一部を借り、一括してこれらの御質問にお答えしたいと思います。

問 日本学術会議とは一体どんなものなのですか。

答 わが国科学者の内外に対する代表機関で、科学に関する重要事項を審議し、重要施策を政府に勧告するものです。

問 どのような構成から出来ているのですか。

答 自然および人文科学の領域が類系別に分れた七部から構成され三年毎に行なわれる選挙によって選ばれた会員によって運営されます。

問 歯科医学とこの会議とはどのような関係にありますか。

答 歯学は、医学、薬学などと共に本会議の第七部に属しており、二名の定員を持っています。

問 その会員はどのようにして選ばれるのですか。選挙人の資格と選挙方法をお教え下さい。

答 まず選挙人および被選挙人の資格ですが、ともに、日本学術会議の有権者名簿に登録された者に限られます。

有権者となる資格はいろいろありますが、大体次の二項目に該当するものといえます。

① 日本国民であって、学歴が新制または旧制大学卒業後二年以上のものないし短大、高専または旧制専門学校卒業後四年以上の者、上記の他研究歴が五年以上のもの。

② 選挙期日前の九カ年以内に研究論文または業績発表を行ったことのあるもので、その全部または概要を学術上の著書として発表したか、しかるべき学会誌、研究機関の機関誌等に発表したもの、あるいは、しかるべき学会等において口頭により発表し、しかもその内容を明らかにするに足る概要が学会誌等に掲載発表されたもの。

次に選挙方法ですが、これは郵便投票によりなされます。すなわち選挙管理会から送られて来た所定の投票用紙に選出しようとする者の氏名を自ら記載して、本人から直接郵送しなければなりません。

問 今度の会員選挙には歯学からどのような人が立候補していますか。

答 次の三氏が立候補しています。松宮誠一(東歯大)、鈴木勝(日大)、白敷美雄(大阪歯大)。

問 学術会議会員の選挙には、所謂選挙運動が行なえるのですか、またその運動にはなにか制限が設けられているのですか。

答 選挙運動は勿論行えます。しかし、その運動には厳重な制限が設けられています。その主なものは次のようなものです。

「当選し、当選させ、または当選させない目的をもった次の行為の文書、図画、録音テープ類の頒布(管理会の検印を受けた葉書を除く)、ポスター、立札の掲示、スライド、映画の映写、新聞、雑誌、放送等による広告、宣伝、演説会、座談会その他これに準ずる方法による選挙運動、戸別訪問、またはこれに類する電話による投票の請託、署名運動、他利害を以て投票を誘導する行為、他組織における地位または機構を利用して投票用紙を集めまたは投票について指示、依頼する行為」

なお、日本学術会議では、第十二回総会で次のような声明を発表致しました。

「日本学術会議の会員選挙は世界に類例を見ないものであり、これの円満な運営は科学者の高度の道徳心の上に立つてのみ可能であり、単に法律を以て律し得るものではない。全国の科学者はこの点に深く思いをいたし、選挙にあたっては、科学者としての良心に恥じないよう、行動せられることを期待する」

終りに、同窓有権者の諸氏には、右の声明の精神に則って、日本の科学界が益々向上するよう、貴重な一票を正しく行使されますことを希望します。

西独ケルン市に開催された 第十三回国際歯科連盟(FDI)学術 会議の概要



講演中の松宮教授

教授 松宮 誠一

生化学方面 エリクソン教授(ス
エーデン)

私は、去る七月七日から十四日に
わたり、西独ケルン市で開催された第
十三回国際歯科連盟学術会議の総会
における特別講演者として招聘され
ました。

七月七日の開会式は、ルネブケ西
独大統領をはじめ政府の各関係大
臣、ミューラー会頭はじめ連盟主顧者
ら、市代表などの祝辞その他引続き
学究者への授賞を以て厳肅に終
了いたしました。翌八日は国際歯科
連盟の事務関係の会合だけが開か
れ、九日からいよいよ学会の幕が盛
大に開かれました。

学会第一日(七月九日)の総会講演
主題「最近における齲蝕原因に関す
る研究の進歩」

演者 組織学方面 スコット博士
(アメリカ)

病理学方面 松宮誠一(日本)

細菌学方面 キーズ博士(アメリ
カ)

カ)

齲蝕の原因には、現在なお多くの
謎が秘められていますが、歯牙組織
の電子顕微鏡的研究において世界的
第一人者であるスコット博士は、珪
酐質(エナメル質)および象牙質に
おける有機質の分布状態、とくに、
無機結晶体との結合関係を中心に多
年の研究成果を発表し、今後の原因
探究に重要な資料を提供いたしまし
た。わが病理学教室は、昭和二十五
年(一九五〇年)に世界ではじめて
齲蝕の電子顕微鏡的研究を発表いた
しましたが、前記のスコット博士に
続き、私はその後内外で行われた多
くの業績をまとめて進歩の現況を説
明し、とくに珪酐質(エナメル質)な
らびに象牙質における齲蝕の初発状
況とその進行経路についてこれまで
の成果から、脱灰がすでに先行して
いることを確認し、現在の有機質溶
解を先発とする諸学説を批判いたし
ました。キーズ博士は、実験齲蝕に
ついての世界的権威者であります
多年にわたって行われたその成果か
ら、酸産生と口腔細菌の環境に対す
る特殊な順応性との関係を明らかに
し、きわめて貴重な知見を明らかに
いたしました。エリクソン博士は、
現在における歯科生化学の最高権威

者であります。唾液の活性と齲蝕
ならびに食物の関係とについて世界
における研究動向を総括的に説明い
たしました。

学会第二日(同十日)の総会講演
主題「歯科保存学に関する最近の問
題」

演者 充填学方面 シャイニン教授
(フィンランド) ミュールマン教
授(スイス)

根管治療方面 エストビー博士(ノ
ールエー)、フリードランド博士
(アメリカ)

歯周病学方面 ヘルド教授(スイス)
コーエン教授(イギリス)

シャイニン教授は、歯科保存学に
おける材料及処置法の効果の決定は
臨床および各基礎学の密接な関連に
よる総合的判定によらねばならぬこ
と、最近著しく進歩した切削技術上
の注意ならびに充填剤は生物学的要
素を第一条件とすることなどを述べ
ました。ミュールマン教授は、現代
の世界における歯科保存学の大部分
の処置法がしだいに予防的治療の方
面に移行しつつある情勢を指摘いた
しました。エストビー博士は、生活
歯髄の処置として、カルキシール(水
酸化カルシウムが主剤)と副腎
皮質ホルモンとの合剤を推奨し、か
つ根管治療についての基礎研究を従
来の人歯を用いた方法から他組織へ
の移植法や組織培養法の利用へ進展
している自己の業績を紹介いたしま
した。フリードランド博士は、根管
治療の成功可能性について述べるこ
とに、諸全身疾患(糖尿病、多発
性骨髄疾患など)の患者における根

端附近組織疾患について説明いけし
ました。ヘルド教授は、最近の歯槽
膿瘍に対する治療の進歩を説明し、
かつ歯周疾患が口腔内微生物の変化
によって良転または悪化したるす
ことを述べ、歯槽膿瘍は本質的に慢
性潰瘍の一種であるとの見解を示し
ました。

学会第三日(同十一日)の総会講演
主題「歯列欠損に対する補綴的処
置」

演者 可撤義歯について コイブマ
ー博士(フィンランド) テムベ
ル博士(オランダ)

固定性義歯について テイルマン
教授(アメリカ) ゲート教授(デ
ンマーク) カスロフ博士(カナ
ダ)

コイブマー博士は、可撤性局所義
歯における咀嚼圧の分布ならびに粘
膜および骨に及ぼす影響を説明し、
テムベル博士は、適応症を誤った局
所義歯の影響、患者教育や後日診査
の問題について述べました。テイル
マン教授は、ブリッジ装着と周囲組
織変化との関連を述べブリッジの静
力学、咀嚼の病理学、患者個々の性
格や習性などの判定の必要性などを
論じました。ゲート教授も同様に、
固定性義歯と周囲組織の反応との関
係を述べ、一方、カスロフ博士は、
技工所で完全な仕事を終わしめるた
めの諸条件を列挙いたしました。

学会第四日(同十二日)の総会講演
主題 口腔外科学

演者 口腔外科学における最近の進
歩 ワールド教授(イギリス)

補綴装置のための顎の外科的前処

置 ハンゼン教授(デンマーク)
口腔出血 シャプラー教授(フラン
ス)

口腔外科における危険な合併症
(ヘニー教授(アメリカ))

まず、ワールド教授は、口腔外科
領域における最近の主な進歩として
技術面もさることながらなによりも
口腔外科医の患者に対する責任感の
向上であると述べ、ついで技術面
について全身麻酔の発達とその利用度
の増加、口腔外科医と麻酔医との協
力体制の確立、さらに顔面損傷にお
ける口腔外科医の重要度の向上を挙
げ、最後に二〇〇例以上の興味ある
顎疾患について紹介いたしました。
ハンゼン教授は、補綴装置のための
顎の外科的前処置として、抜歯及び
抜歯窩に対する注意、義歯装着後に
起る顎萎縮の原因ならびにその治療
処置としての骨移植法について説明
いたしました。また、ヘニー教授は、
口腔外科領域における危険な合併症
として全身麻酔ならびに局所麻酔に
よる諸事故、各種の全身感染、後出
血、浮腫などを挙げ、その原因と処
置法とについて解説いたしました。
以上で一応この報告を終りたいと
思いますが、明年の年次総会はスト
ックホルムにて、また、五年後の第
十四回国際歯科連盟学術会議はバリ
において開かれることに決定しまし
た。

日本からも、さらに多数の方々が
参加されるよう深く切望して筆をお
くことにいたします。

× × × × ×

齋藤久教授古稀祝いの集い

美久会幹事

恩師齋藤先生が、今秋七十の齡を迎えられましたので、矯正学教室を中心としたわれら門下生一同で心許りのお祝いの会合を去る九月八日夜、同教授御夫妻をお招きして駿河台「山の上ホテル」において行つた。榎本美彦、岩垣宏岡先生の陪席を頂いて六十余名が集り、和やかな祝宴を張りました。五時半より山本教授の挨拶後、記念講演として同教授の「保定について」と題する四十八年にわたる体験と溫蓄とを傾けられたお話をきき、今後尙変らない矯正



同窓の皆様へ

昭和三十七年八月二十日 オスローにて
教授 松井隆弘

残暑御見舞申し上げます。今同学校より派遣されて、パリに於けるO・R・C・A（ヨーロッパ弗素並びに齶歯予防委員会大会）の総会講演、またボン市に於ける第二回歯科基礎医学会、更に、五年目毎に開かれる第十三回國際歯科医師会連合大会（F・D・I・ケルン市）に於ける學術報告に出席、かたがた欧米各地視察に際しましては、過分の御高配を頂き、恐縮至極に存じます。さて、只今、ノールウエーのオスローにまいっております。お蔭様で至極元氣です。何の心配もなく楽しく旅を続けさせて頂いております。訪問先の学長さんや、教授の方々が次々とよく連絡して下さい、全く親切なものと、感心する程です。さて、これまでは、一通りの御挨拶ですが、これから、御礼の一つ感想

を述べさせて頂き、御参考に供したものと存じます。凡そ、人をみたら泥棒と思え、何か悪いことをしているに違いない。叩けば必ず埃が出る。こういう考えが、多くの、いや少数の人でしようが、あるのではないのでしょうか。それが、特にオスローでこの手紙を書かせている、私の心境をおくみと願いたいと思うのです。ノールウエーのオスローの空港へ着いたのは、八月十八日（土）の午後四時半でした。税関でパスポートを示すと、私の顔を見、パスポートの表紙を見、開こうともしないで、ニコニコして向うへと指さしているの、指さしているそっちへ行、荷物の積くのを待ちながら、ノールウエー貨幣に交換し、立つてい、そのうち飛行機から荷物が運ばれて来て、待っている一同の人達に向って、この荷物はバスに乘せて置くから、皆（今、飛行機から降りた全員）車に乗りというではありませんか。そこで「ハ、ハア」これは、「バスターミナル」に着いて検査をするのだらうと思つて、一同乗り込みました。約一時間程、バスにゆられて、オスロー市内着。係員（バス会社）が荷物を降し、皆に荷物を渡しているではありませんか。全く検査なしという訳です。さあ、ここです。私のいいところは、大体悪いことをする大物など、税関に引かかるものではない。かかるのはさ

古稀祝いに出席して

堤 敏郎

想えば、私は先生の許に前後十七年の青春を過しました。時間の点では山本義茂教授に次ぐ長い御薫陶を頂いたので致すの懐かしい思い出は尽きません。御承知のように、先生は自己を律するに大変厳しい方で、黙々と自己の信ずる道を歩かれましたが、反面われわれに對しては寛容で慈顔に満ちた物柔らかな指導振りは、接するものに何か温いものを感じさせずにおきませんでした。誠に文字通りの典型的な教育者の貴い姿そのものでした。私は先生の膝下を七年前に離れて、現在は臨床矯正一歩に歩いて、又歯科ペンタラプのお世話を受けて頂いていますので、いわゆる当代一流と称せられる歯科界の方々に接する機会が非常に多いのですが、年が経るにつれ、先生を師と仰いだ幸を強く感じさせられております。先生は、私の誇りであるだけでなく、わが水道橋の誇りであります。先生は、誠に地味で孤高的なお方ですが、全国同窓諸兄は、このおり先生の慈顔を回想してわれわれと共に先生の古稀を衷心から祝福されると信じ、あえて拙文を書きました次第です。（九・一〇）

第十三回國際歯科連盟學術會議出席者

（同窓関係者）

先般西ドイツ・ケルン市において開催された第十三回國際齒科連盟學術會議および英國・ロンドン市において開催された第一回國際口腔外科学会には母校より、松宮誠一、松井隆弘、長尾喜景の三教授が出席されたが、このほかに一般開業医として次の九名の同窓関係者が参加された。

森	老朗	桑名市
笠井	久之	東京都
石崎	憲吉	富山市
山下又次郎		武蔵野市
小川	涉	小金井市
関剛	三郎	富山市
芳村	正雄	東京都
加藤	久二	四日市市
吉峰	登	東京都

× × × × ×

寄稿

六十二年前の高山歯科医学院

時代を偲びて(完)

田部井己之八

彼の野口英世も天才的頭脳の持主で、野口氏は一度本を読んだら二度と読む必要はないと云われたと相まって、血脇先生は二大学者を抱擁して着々整備拡張して今の学校現出に対処されたと考えます時全く感慨無量のものが有ります。

尚、東京歯科医学学校時代(大成年学々舎時)に私と共にあった友人で三十四年度以後に合格された方は、深沢可美良(後早川改姓)花沢鼎、大村一男、竹内治平(愛知)吉田鉄太郎(岐阜)加藤虎雄(水戸)舟山勇七(福島)大塚釜衛(埼玉)早川三郎(東京)荒野作次郎(東京)吉岩熊蔵(新潟)谷川九利(東京)石川源次郎(静岡)佐田田四郎助(鹿児島)松本潤三(仙台)若井金作(東京)佐久間兵治(山口)岡島泰治(大分)早川イネ(千葉)山口トミエ(長野)阿部浩吉(仙台)の諸氏であります。

もう一つの逸話として記憶に残っている事は、野口英世氏を血脇先生が見出した動機であります。血脇先生が所用で若松の渡辺と云うドクターの家を訪ふた時に玄関番の野口氏が机上に長さ一尺幅五寸厚さ五寸位の大辞書(此時代英辞書は大きかった)により語学の勉強をしていたのを見てこの片田舎に珍しいと血脇先生は第六感的にこの書生只物でないと思われ、君が上京の晩には自分を尋

ねて来る様にと約束して帰られた処が日ならずして上京、血脇先生の居られる高山歯科医学院に來られたので血脇先生も野口氏をどう世話をしたらととうにうて、先づ高山院長に院内同居を頼みました処、一時は院長に拒否され、この血脇先生も將來ある青年と見込んで何んとか便宜を構じてやりたいと約束したので自から苦しい立場を耐え忍んでその当時血脇先生は自分の月給八円の内、参門を野口氏へ与えて済生学舎にかよわせたのであります。処が血脇先生の眼力違わず、済生学舎に一年前後入っていた丈で国家試験に合格し、血脇先生をして北里伝染病研究所へ入所、それ以来矢つぎばやに野口氏は業績を挙げ、遂に北里先生にも信を受け欧米視察名目でアメリカに行き天敏の頭脳と最大の努力によって米國に止まり、世界の伝染病研究に大きな功績を残したことは衆知の如くであります。野口氏が世に出たる端緒をなしたる人は誰であろう血脇

先生であります。私が学院に入った一年そこそこの頃でしたので野口氏はよく知っておりまして。古来陰徳あれば陽報ありと実に名言でありまして、誰人もなし得ざることをなしたとげたる血脇先生の行為は遂に今日の大学の偉をなしたものであります。更に又、私等は懐古するに、野口氏が渡米後ロックフエラー研究所に落着いたら血脇先生をアメリカに招待し各方面に、紹介し、奥村氏を渡米させ、有名歯科大学に案内されて学校経営、教授方法、刊行書一切の便宜を与へ、日本最初の整備された専門学校さらに現在の大学までしたのには、野口氏が血脇先生におむくいた最大の証左でありました。又、野口氏が渡米されたのは明治三十三年十一月五日であり、その前七月私の在学中神田錦輝館で野口氏の送別会を催した際そこに会した者は学校講師、生徒合せて六十二名でありました。發起人の総代加藤虎雄君の送別の挨拶、野口氏の謝辞、和仁真一教授の送別の歌、田部井己之八の送行の詩吟、血脇先生の野口氏経歴の紹介等があり盛會裡に終わりましたことなども忘れ得ないことであります(完)。

水害御見舞

先般、北海道各地におこった集中豪雨により被害を受けられた同窓各位に対して心からお見舞申し上げます。

昭和三十七年九月十日

東京歯科大学学長 福島秀策
東京歯科大学同窓会会長 中井武一郎

急カーブを辿る需用量

↓
歯科用局所麻酔注

ネピカイン

改 正 価 格	1cc×25}	¥480
	2cc×25}	
	1cc×50	¥400
	2cc×50	¥480
	20CCバイアル	¥160

製造発売元

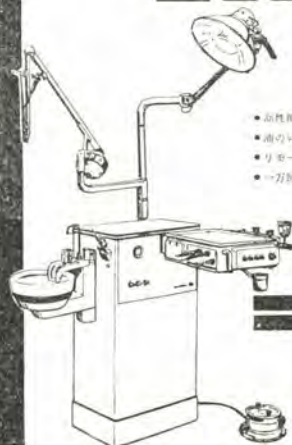
ネオ製薬株式会社

東京都渋谷区羽沢町130

新しい感覚の能率的なユニット

エアーゼット、コンプレッサー内蔵

Leo-II



- ・高性能40万回転エアーゼット
- ・油のいらぬ強力コンプレッサー
- ・リポートコントロールのジョブ給水
- ・一万回転アローエンジン

¥495,000(税別)



森田製作所
森田歯科商店
東京都渋谷区羽沢町130

このシリーズのついでに
製品をお買求め下さい

各地同窓会のうき

千葉県支部

八月十九日千葉市の医歯薬会館に於て昭和三十六年度定時総会を開催した。前日あたりから台風十二号の接近が報ぜられ、険悪な天候で、会員の出席が案ぜられたが、三十数名の出席があり、例年通り会務報告、予算、決算の審議も型通り行われ、議案は何れも承認可決され少憩の後渡辺助教の「アマルガム、レジン充填の講演があり、同助教の多年の貴重な研究と臨床の経験から得られた、うんちくある内容に会員は熱心に傾聴し、活発な質問も行われたが、何しろ天候が次第に怪しくなりつつあるので早目に切り上げ、京成飯店に於ける懇親会に席を替えた。母校渡辺助教と本部事務局長三浦敬二老もこれに加わり四つの大テーブルを囲み、例によって和気あいあい、スピリットの方は余る程あるもので、いつしか天気の話など忘れて、年に一度の同窓会ならではの盛会となり、校歌の合唱で会を閉じたのは八時近くだった。

当日の出席者は左の通り。順不同
杉山開多、杉山英世、丸島鉄男、浅野豊、斎藤武彦、宮吉中、寺本定治郎、佐野公人、杉山邦夫、白井泉、中村喜之助、大根英次、榎智光、上田千之、新保利雄、志田晴海、天羽正、百束尚彦、内田宏、道脇公一、岡崎正史、坂正義、坂登輝夫、鈴木芳信、相原誠一郎、藍野一六、福田富弥、池田漢、相沢甲正、水上正二、川手俊明、井上裕、小沼孟

青森県支部

北海道連合同窓会総会出席のため渡道中の中井先生の動静につき八月二十一日函館向山支部長から「只今出帆した宜しく頼む」との電話あり、青森横橋に待つや午後五時お元気で来青した。石山支部長浅田副支部長久保内、小笠原君達の出迎えを受け、直に石山支部長次男照雄(学部二年生)の運転する自家用車にて南下黒石市の松井礼七先生の墓参に向う。松井先生は大本正の末から昭和のはじめまで母校の教授をつとめ歯科材料、補綴を講義、運動が得意で野球、庭球の選手でことに柔道は講道館四段で相撲は又国技館本戸御免でありました。



卓球は大日本卓球協会関東本部長

で当時現役一流選手の實力があった。中井先生は松井先生の跡を継ぎ卓球部長をつとめ小笠原榮造君は当時の主将格でありました。松井先生逝きて十七年、実家は黒石市第一の薬種問屋。名称は七兵衛サマ薬局であります。今は未亡人が東京に移り長男の末亡人が跡を継いでいる。仏壇に香を焚き冥福を祈り菩提寺の円覚寺を訪う。地元の黒石支部会長岩谷金次郎、清藤勇吉、丈田清美、清藤



三津郎、波多野祥二、中村善佐衛門、明本康正の同窓諸兄の出迎えあり。円覚寺住職は明本氏の令兄。十七回の法要を懇に営み後墓参。中井先生花束を墓前に捧げ兼ねてよりの念願を果し感無量なるものであります。再び青森市を経て浅虫温泉観光ホテルに宿泊す。同夜は中井先生水道橋クラブの会長として東北卓連、青

森県卓連会長の浅田君日本卓球協会監事の小笠原君と卓球の思出話に一夜を明した。八月二十二日午前十時より同旅館広間於て昭和三十七年度東函大同窓会県支部総会開催。校歌斉唱。故西村名誉教授へ黙禱。石山支部長挨拶。中井会長祝辞、昭和三十六年度庶務報告工藤一郎幹事、会計報告宮崎幹事、役員改選は満場一致留任決定。ここに石山君は三期支部長就任す。昭和三十八年度予算審議承認を得て閉会す。休憩午後一時半より西独ケルン市で開催された第十三回国際歯科医学会に出席した市会議員佐藤静郎君の帰朝報告あり。次に中井会長の母校の近況。臨床家に必要な薬剤について講演あり。会員一同へ感銘を与えました。懇親会に移り各自学生時代を思い出し、水道橋精神を發揮し大いに呑み且つ語り盛況の裡に午後七時閉会。会長は同夜九時の北斗で帰京された。

当日出席者次の如し(敬称略順不同)

福島誠吉、久保内健太郎、島中豊彦、長内秀夫、長内滋夫、石山芳雄、宮崎芳雄、浅田喜三郎、小笠原榮造、工藤一郎、佐藤静郎、奥瀬馨、成田忠直、小川正雄、清藤三津郎、岩谷金次郎、安田良造、佐藤幸太郎、佐貫大之助、富士嘉次郎、黒田正文、小川武正、佐々木学、昆彦一郎、北村健三郎、北村和夫、北村昭生、佐藤京介、佐藤一、の二十九氏(幹事記)

鳥取県支部

○昭和三十三年八月二十五日(土)午後三時より五時半まで、鳥取県支

部東函学会(西部歯科医師会と共同)が米子市加茂神社式場にて行われた。

母校から三崎鈔郎教授を迎え、「X線診断について」付放射線障害防止と歯科X線の臨床——と題し特別講演を願った。

学会終了後五台の自家用車に分乗し、日野郡溝口より夕陽に輝く国立公園大山へ向った。久しぶりに多数の同窓生の集りをみ、学究に懇親に誠に近來にない大盛況に有意義にして且つ楽しい大山高原の一日を過ぎました事、関係者一同深く喜ぶと共に今後共各会員互に研鑽精進、尚一層歯科界の為に努力致しなく思います。

○三崎教授関西方面へ出張の情報をキャッチ、この機会をと熊野支部長、岡本治先生の御尽力により、鳥取支部総会に同教授の御臨席をえ、支部総会を大山高原ホテルにて同日午後七時より開催した。岡本治氏の開会の辞につづいて熊野支部長挨拶、更に中村義信氏の庶務会計報告があり、満場異議なくこれを承認、引づいて次の議事に入った。

1 事業計画に関する件

学会並びに総会は出来る限り一年一回開催する事に決定

2 会費徴収に関する件

基金より従前通り徴収する事に決定

3 慶弔に関する件

A 死亡の場合は二、〇〇〇円を基準として香奠又は花輪とする

B 病氣見舞の場合は一、〇〇〇円を基準とする

C 会員の慶事並びに転出に關し
ては予算の都合上見合せる

D 其の他の件

県歯北村事務局長への謝礼金として年一、〇〇〇円を贈呈する(三十六度より)

最後に村田美雄氏の閉会の辭があり、その後特に三崎教授より母校の近況について詳細な報告があった。

四海会

クラス会 便り

本年の総会を左記の如く行います。奮つて多数御出席をお願い致します。尚、先般外遊された村瀬教授もすでに帰朝され、長尾教授は本月下旬に戻られる事になって居ります。岡先生を囲んでいろいろと御苦心談やら、皆様方の近況をお互に語り合いたいと思います。今回は場所を横浜で溝呂木章吉君を現地幹事をお願い致しました。

期日 十一月十一日(同窓会總會当日) 午後五時半開宴
会費 一五〇〇円
場所 横浜市中区常盤町四丁目 美楽園、電横浜(68)六〇七二。水道橋より約一時間。桜木町駅より徒歩十分位。

切 十月下旬
来年は卒業三十周年を迎えますのでこの計画をどうするか皆さんで御研究の上、当日その案をお示し下さい。

四海会委員 山本義茂 小坂 力 清信静夫

昭久会

出席者氏名(敬称略)

(東部) 村田美雄、秋庭美津男、伊藤 弘(中部) 倉繁房吉、熊野千太郎、藤川政男、川西勝政、中村義信(西部) 田本伊勢松、大坪正章、岡本治、小徳静男、西川利、朝倉重美、田本博猛、田本淳、今井悟、高橋信治、鈴木邦介、西島寛子(鳥取県支部)

昭久会の皆様毎日公私共に御多端に御活躍の事と存じます。陳者来る十一月の同窓会には例年通りクラス会を十一月十日午後六時より西武新宿駅前「えぞ御殿」にて開催致しますから万障御繰合せ出席下さる様御待して居ります。改めて詳細な案内状を御送りします。

京都で盛大に挙行致しました二十周年記念クラス会の感激も昨日今日の出来事の様に思われましたが、来年三十八年はいよいよ目出度く二十五周年を迎える事と相成りますので、二十周年の折に九州にて挙行致すべく皆様と御契約しました通り、之の準備を九州の昭久会諸氏が着々と御骨折り下さって居ります。誠に感謝に堪えません。

其の意味でも此度のクラス会は二十五周年の前夜祭とも申しましようか、思いを遙かに九州にはせて色々懇談し、又御希望を承り度く存じても居りますから何卒多数御出席下さい。来年度の記念クラス会に就きましては今後本紙を通じて時々皆様御連絡致し度いと思つて居ります。

す。(安達直記)

仁蜂会

皆さんお元気ですか また集る秋が巡つてきました。 日時 十一月十一日(日)午後五時 場所 伊東温泉ホテル三幸園 会費 参千五百円(電二四九三) 「くじびき」を始めとして名プランを秘めております。

申込 十月二日まで
御同伴親迎、座席指定(東京から伊東までは十月八日まで)は幹事へ

今年の春、夏は、近畿、中部で、クラス有志が欲を共にしましたが、八丈島観光、東北観光は本年おあずけとなりました。卒業二十周年となりますが三年後の二十五周年の名プランを持寄つて是非万障繰合せお集り下さい。(渡辺、田口、堤)

一志会

十一月二十三日のクラス会についての中間報告を致します。 返事のきた方九十四名 出席 二十六名、出席するつもりの方三十六名、計六十二名。 (うち家族を同伴される方十二名) 未定二十名、欠席十一名 返事のない方 五十三名となっております(九月二十一日現在)

おな 森高美君が本年四月十日に逝去されたことがわかりました。謹んで哀悼の意を表します。 つぎの諸君の住所が不明で困っております。御存知の方は小生までお知らせ下さい。 岩藤司、鎌谷真、近藤彦雄、近藤豊、村上盛久、関根弘利、清水信

政、四の宮高明、重富勲、杉山勝彦、種子田建一、手塚仁、徐家英、千原性根、林後生(以上十五名)

当日の詳細については、着々具体案を練つております。近日中に野口春治君と同道して現地をみてる予定です。お互にきそい合せの都合もありましようから出席、欠席の方々の氏名を他の報告事項と共に印刷物にしてお送り致します。なお、朝鮮の金用増(金山謙三)台湾の蘇欽煌、林明伝、張和東の諸君とは連絡がつかしました。皆さん元気で活躍されてる由お便りも戴きましたので御報告致しておきます。(渡辺)

二六会

二六会々員の皆さん、益々御元気で御活躍の事と思ひます。会報第二号の発刊が若干遅れましたが、既に御手許に届いている事と思ひます。

読後の御感想如何ですか。全会員の現況紹介を目標にいたしておりますが、原稿の集まりが仲々意の如くならず幹事は編集に苦心いたしております。どうかどしどし近影(出来れば御家族御一緒の写真)あるいはオフィスの写真、または、近況をこれに副えて至急幹事迄御送り下さい。到着次第早速掲載いたします。扱態々待望のクラス会の時期が近づいて参りました。今年は十一月十日、十一日ですが今年は来年に控えた卒業二十周年記念事業打合せ等、会員の皆さんと種々、御意見を交換いたしたいと思ひ、一人でも多くの出席が望まれております。在京会員はこの記念事業準備会をこれ迄に数回開催いたし、着々とその準備を進めてお

りますが、これ等につきまして地方在住会員の皆さんの御意見を拝聴いたし、準備に万全を期したいと思つております。

本年度のクラス会はこの様な事情から東京にて開催の予定でしたが、時間的に余裕のある一泊旅行を幹事会で決定いたしました。追而詳細については御連絡申し上げますが、万障御繰合せの上是非御出席下さいませ。地方幹事を御願いたしてある幹事の皆さんは是非御出席下さいませ。尚二十周年記念事業の一つとして、アルバム作製が計画されておりますが、全会員の写真を集めるのに極めて長期間を要しますので本年度より早速その募集を始める事にいたしました。これに伴つて在京会員の方々に御願いたし、一人十名位を担当、責任を持つて募集して頂く事を申合せ決定いたしました。その割当も終了しました。近々地方在住の会員の皆さんのところに連絡がある事と思ひますが、その節はこの主旨を御了承頂いて御協力下さいませ。幹事から特に御願申し上げます。クラス会総会にて皆さんの元氣な御顔と御会います事を楽しみに。(幹事 田中)

いとし会

光陰矢の如く我々「いとし会」も年々盛大になり何時の間にか十四回目のクラス会を迎えることになりました。全国各地で御活躍の諸兄姉には其の後も益々御健勝のことと拝察致しております。昨年の白雲閣においての決議により今年と来年の二回

は東京江東地区会員が幹事となりお世話させて頂くことになり目下皆で懸命に東西奔走御期待に添うよう努力致しておりますので万障お繰合せの上多数の御参加をお願い申し上げます。殊に北海道地区の諸兄は遠路大変でしょうが久しぶりにお元気な姿をぜひ拝見致したく御出席お待ち致しております。

尚、期日は十一月十日(土)会場は東京にてその他詳細は近日中に御通知申し上げます。悲しいお知らせですが東京目黒区柿ノ木坂渡辺孝君が今年一月三〇日心臓麻痺の為亡くなりました。幹事一同心より、お悔み申上げるとともに地方の諸兄にお知らせ致します。(幹事)

いそむ会

皆さんお元気ですか。暫らく御無沙汰して申し訳ありません。

例年のように本年は十一月十一日(日)に同窓会総会が開催されますので是非共御上京下さい。本年のクラス会は大森幹事はじめ幹事全員で会場の獲得に奔走しております。しかしながら本原橋締切に間に合いませんので、追って御通知申上します。期日は十一月十一日前後ですが何分とも御容赦の程お願い致します。皆さんの御隆盛と御多幸を念じつつ相会する日をお待ち致します。

(鈴木和男記)

一期会

◆急に冷気が身にしみる候となりました。皆様お元気の事と思います。◆去る九月十八日付で級友佐藤徹一郎兄が講師から助教授に昇任されま

した。母校卒業以来木村教授の下で齒槽膿漏症の研究治療に従事され誠に斯学の専門家であります。今後より一層の御活躍を期すと共に、一期会の発展を約すものと心からお慶び致します。

◆一期会十周年記念総会が迫りました。伊香保温泉金太夫での総会が待ちどろしい。総会参加申込者は：西山、岩井、西村、原、渡辺、桜井、今井、尾上、石塚、押尾、高橋、莊、小波、川口、矢野、小池、阿部、中川、鶴木、木屋、畦森、田口、出井、明石、高松、福田、相田、多胡、兵藤、山本(勝)、神尾、三浦、中村、坂田、倉繁、大森、羽賀、勝山、似鳥、津島、片倉、香山、斎藤、佐藤(徹)、関根、宝田、泉地、大御、見明(見明記)

噴噴会

漸く涼しさを身に覚えるようになってきました。諸兄姉御元氣のことと存じます。さて今秋の級会は座敷であぐらをかきながら中華料理をバクつかうとの趣向で左の如く定めしました。在京諸君は勿論、北海道、北陸、九州、中国その他の地方の諸君もふるって御参加下さることを希望します。

なお、去年の級会の決定に基づいて、今年度から会則を制定するため、級会の席上原案を御審議願う予定です。

噴噴会級会案内

一、場所 浅草「正華」電話三八八四

浅草雷門二ノ一

一、日時 十一月十一日(日)

午後四時—七時

一、会費 貳千五百円 (幹事)

四期会

例年になく残暑が続きましたが四期会の諸兄姉にはお変わりなく益々御活躍の事と思います。

幹事が揃いも揃って筆不精のため多忙をいい口実になかなか会報に筆を走らせる事が出来ず誠に申し訳なく思っております。

さて、本年度の級会は昨年既に会報にて御知らせしましたとおり、来る十一月十日(土)午後五時半より東京池袋の割烹「川口」にて開催いたします。後日詳細について御通知いたします。後日詳細について御通知いたただけるよう御協力下さい。

なお毎年一、二名の方に通知が届かぬことがあります(当方で通知を出しても届かぬ)ので月中旬に通知がお手元に参らぬ時は御一報下さい。為念、会場は池袋東二、三分で近くでお尋ねになればすぐ分ります(電話番号は971-7300、四九九六、四九九七)。

なんとか御期待に添うような努力はいたしますから一年振りに一堂に会し皆様の元氣な顔と相変らずの若々しい余興などを拝見させていただきます。は十一月十日にお会いしましょう。楽しみに御返信をお待ちしております。(飯塚記)

五期会

しばらく、この会報上にては、ごぶさたしておりますが、五期会の諸君には、益々御健勝のことと推察いたします。さて、本年十一月の五期会総会

は、過日通知しましたように、伊豆長岡温泉、いずみ荘にて、二十四日に行うことに決定いたしました。今回は、或る観光会社の知人を得ましたので、座席指定券などの、サービスにてこれ勤めす故、多数の御参加をお待ちいたします。参考までに、昨年の箱根における出席者の名(敬称略)を記します。

秋山、秋田、五百住(一)、五百住(司)、石川、石崎、市川(裕)、稲垣、小沢、小沼、小野寺、及川、岩田、大橋、荻野、奥村、落合雅、河田、倉嶋、黒岩、品川、渡川、新谷(政)、田辺、高橋(一)、高島、高田、豊田、中村、永野、成毛、二宮、長谷部、早川、平山(淨)、藤原、八幡、山口、山本(陽)、鎗田、吉木、井上(長)、角田、高橋(邦)。

なお、前にお送りいたしました名簿にも記しておきましたが、脱会された会員には、名簿の発送や、その後の通知をいたしておりませんので、悪しからず御了承下さい。しかし、御多忙のことです故、つい、不本意に会費の納入を失念されている方には、勿論、再入会を拒むものではありません故、五期会宛に、あらためて御連絡下されば幸いです。(幹事一同)

六喜会

諸兄姉には益々、多事多忙の事と存じます。扱て、二カ月前、往復はがきで御案内しました通り、卒業後満五周年目を迎えた第四回総会は、来る十一月十日(土)午後五時より熱海の「大和ホテル」で開催致します。

第十期会

猛暑のやわらぎと共に、診療や研究に増々励まれておいでになる十期生諸兄に御報告いたします。

去る七月二十一日在京及び東京近郊の会員が本学会に会合、第十期会第一回総会を準備する会を開催した。一堂に会した八十三名の会員に卒業記念アルバムが配布され、同時に決算報告が行われた。会はいよいよ盛大となり、関根元副主任の首頭で国家試験全員合格を祝し、且つ第十期会々員の隆盛を折って乾杯、続いて、長尾、関根元副主任にアルバム贈呈、余興の歌などが入り久しぶりの旧交を暖めた後、総会役員には、滝沢、高江洲両君が推選され、満場一致で承認。かくして八時過ぎ散会となりました。

尚、この準備会を催すにあたり、近藤教授及び本学会に留まっている諸会員の非常な御協力に感謝します。アルバム、この華麗な立派さもさることながら、この様な多数の会員を集めた盛大な会は予期しないものでし

九月二十二日現在、六十三名の出席申込みがあり当日の盛会が予想されます。すでに欠席と通知された方では、是非とも会を盛んにするために御出席下さい。尚、未だ返信を御忘れの方も、至急御一報下さい。ふるって御出席下さい。熱海でお会いしましょう。たのしみにしています。衛生で長い間奮闘して居りました高木茂君(旧姓吉田)は、六月一杯で当教室を退職し厚生省医務局に就職致しました。(幹事)

た。アルバム委員各位の久しい御努力を感謝します。(古川)
第十期会第一回総会報告
日時 十一月十一日午後五時より
場所 観光閣(春日町)にて
会費 一千円
尚、詳細は葉書にて各会員に御通知いたします。(高江洲、滝沢)

逝去会員

三好 甫氏 (3) 三七、八、二 静岡県
小島勇次氏 三七、八、五 港区
安藤末吉氏 (6) 三七、七、五 兵庫県
笹本一雄氏 16. 12 三七、七、二六
城生越義氏 (6) 三七、八、七 富山県
遠藤賢久氏 三七、七、一 旭川
谷主三郎氏 (5) 七、八、一八 板橋区
神戸満信氏 三七、八、一七 群馬県
沢 重孝氏 (6) 三七、八、一六 愛知県
渡辺 盛氏 (4) 三七、八、一十 勝
文屋賀州郎氏 10 三七、八、一六 品川区
大谷 弘氏 三七、七、六 淀橋
田中友三郎氏 三七、三、三一 北信
岡 幸一氏 三七、九、一三 京橋
以上

現住所変更

(敬称略)

鈴木 邦介 37 鳥取県米子市加茂町
一ノ三六 岡本兩科
笠井 勉 27 山梨県甲府市宮前町
六番地三三
小山 勉 33 福島県田村郡三春町
字大町一、二
高 達 (8) 市川市須和田町二ノ
三七五 電話市川②八五四六
南部 淳 34 墨田区緑町三ノ七

小林 正平 6 長野県上田市新参町
五五三〇
池田明治郎 (6) 福岡市渡辺通五ノ三
ノ二五号
電話福岡 (76) 三九二六
北野 晋一 27 三重県松坂市長月町
第22 福岡県久留米市大石
町三四一
由良 竹三 23 江戸川区小岩町四ノ
一七一五 電話 (67) 六一七〇
安藤 博 品川区北品川三ノ二
一六 電話 (49) 八二六六
小林喜久丸 6 長野県中野市湯町五
五六
長沢 安弥 福島県平市紅葉町一
〇〇開花荘内
佐藤 和夫 28 茨城県古河市北新町
六〇五七
大迫 美義 神戸市灘区篠原中町
四ノ一〇〇四
松田 潔 9 静岡市南町一ノ一〇
電話 (2) 三三五四
大橋 俊樹 35 名古屋市中区主税町
二ノ五
大和田 哲 33 浜松市虹塚町一九六
六四ノ一四
岩瀬 朗 34 岡崎市康生通西三ノ
一
大野 喜市 17.9 松山市南歩行町二七
電話②二七二〇
杉山 忠直 20.9 横浜市戸塚区桂町六
三八
西川 啓介 25 福島県伊達郡伊達町
右城二四 電話 伊達一〇九
六三〇
寺田 昭道 34 世田谷区世田谷四ノ
三
加藤 慎一 41 北海道上川郡愛別町
本町五

福田悦比古 14 北海道札幌市札幌市
字幌泉七四 電話札幌一六三
岩井 一 23 横浜市南区庚台一
中屋 秀昭 36 江戸川区小岩町三ノ
一九二五 藤沢方
杉山 浩一 23 練馬区大泉町一九六
電話 (96) 六六七九
名取 駿 27 千葉県船橋市高根台
団地一九〇号館五号
大山 万夫 25 神奈川県川崎市百合
丘一ノ一八
電話 (0449) 六八二八
永井 司郎 20.9 京都府中京区大角新
町西入ル京都通信病
院
稲浜 洋一 33 豊島区池袋東三ノ二
三伊藤清次方
電話 982 八九二〇
平岡 輝朗 29 福岡市清川一丁目九
街区二四号平岡ビル二階
平岡 心輝 福岡市清川一丁目九
街区二四号平岡ビル二階
平林 てつ 37 杉並区堀之内一ノ七三
大野 恒夫 26 墨田区錦糸町二ノ一
大坪日出雄 32 山形市鉄砲町一九二
改 姓
栗原 恒夫 26 大野に改姓
墨田区錦糸町二ノ一
編集部よりのお願
本会報は同窓会員相互間の親睦並び
に連絡を主な目的とするものであり
ます。
最近支部からのお便りが少ないよう
です。全国各地支部の動静をお知ら
せ下さい。
また、クラス会便りはもとより個人
の寄稿も歓迎します。

図書館だより

第十八号

左に列記したものは最近図書館で
購入した専門書の一部です。このリ
ストは逐次掲載されますから図書目
録として御使用になれば御便利かと
存じます

色彩科学協会編、色彩科学ハンドブ
ック、南江堂

高橋長雄、全身麻酔法、(理論と実際)
医学書院

医学公論社、日本歯科医籍録(第七
版)

相良守次編、心理学入門講座(二)
大日本図書KK

高田良平、日本ビタミン文献集(一
八八四一九六〇) 同会寄贈

後藤光治等編、臨床耳鼻咽喉科全書
一〜一耳科編 金原出版

〔和 書〕

有本邦太郎、新版食品成分表、光世
館
日本血液学会編、日本血液全書、(5)
白血病及び類縁疾患、丸善、
日本ビタミン学会、ビタミン学の進
歩、第四集 同会

日本医学放射線学会編、日本医学放
射線文献索引、昭15〜昭36
後藤光治等編、臨床耳鼻咽喉科全書
一〜一耳科編 金原出版

〔洋 書〕
Quiring, Daniel P. & Warfel, John H.
The Head, Neck, and Trunk.
Philadelphia, Lea & Febiger, 1960. 124p.

Silverman, Sidney I.
Oral Physiology.
St. Louis, The C. V. Mosby Co., 1961. 533p.

Beckman Harry. (ed)
The Year Book of Drug Therapy.
(1961-1962 Year Book Series)
Chicago, Year Book Medical Pub., 1962. 597p.

Hoffmann-Axthelm, Walter.
Zahnärztliches Lexikon. 3 Aufl.
Leipzig, Johann Ambrosius Barth, 1962. 552p.

Sognnaes, Reidar Fauske.
Chemistry and Prevention of Dental caries.
Springfield, Charles C Thomas, Pub., 1962. 231p.

Blake, G. C. & Trotter, J. R.
Periodontology.
London, Butterworths, 1962. 224p.

Pruzansky, Samuel, and others (ed)
Congenital Anomalies of the Face and Associated
Structures. Proceedings of an International Symposium.
Springfield, Charles C. Thomas, Pub., 1961. 385p.